

海原純子 東京・池袋“スタジオ・デデ”より配信, 10月11日(月)



■ Set List ①ビバップ・リグズ(バップリシティ) ②クワイエット・ナイツ・オブ・クワイエット・スターズ
③デヴィル・メイ・ケア ④ゼン・アンド・ナウ ⑤雨の日の天使 ⑥ナウズ・ザ・タイム ⑦O Conto
Das Nuvens(雲の物語)

■ Personnel 海原純子(vo, talk), 若井優也(p), 楠井五月(b), 海野俊輔(ds)

どんな難曲でも、必ず自分のものとしてしまう海原純子の機知と知性

二作目のアルバム『ゼン・アンド・ナウ』を発表した海原純子が、語りと歌のアルバムを録音した“スタジオ・デデ”からオンライン配信ライブをした。機材調整の不具合か語りの音量が小さい(歌唱部分は十全の音量)というトラブルに見舞われたが、海原本人は落ち着いたもので柳に風と受け流し、その表情は終始にこやかだった。

海原は医学の世界では人も知る心療内科医。講演や学会での発表、診療、医科大学での講義そして執筆と多忙を極める中でジャズ・ヴォーカルの腕を磨くことは通り一遍の努力ではないはずだ。その重圧をはね返すのは機知であることを彼女は知っている。

10月20日に私がジャズ解説と出演ミュージシャンのブックイングを担当するNHK横浜放送局の「はま☆キラ！」に海

原さんに出ていただいたとき、彼女はこんな話をしてくれた。「人間には想定外の出来事はしょっちゅう起こります。そんなときにはリフレーム(医学用語で別の枠組みから肯定的な解答を得る)して同じことができないかと考えます」。

私はこうした彼女の機に臨んで自在の対応ができる知性とゆとりのある人柄に感動した。こうした気持ちにさせるのも、彼女が自分の思いを率直に話す言葉を持っているからだ。話術の巧さは歌にも活かされる。

配信で歌ったマイルスの『クールの誕生』に含まれる①(バップリシティのヴォーカライズ)というとんでもない難曲(音の跳躍と言葉の詰まった歌詞)も余裕綽々とこなしてしまう。しかもそれはマイルスの演奏やマーク・マーフィーの歌とは違う海原純子の音楽なのだ。

「物事は結果が全てではありません。努力しても出来ないものは出来ない。私は日本人だしリズムや英語の発音も完全ではない。でも私の好きな詩にこんな部分があります。“錆びた刀はいくら研いでも光らないかもしれないが研いでいる自分が光る”という言葉。結果は出なくとも別の物事が成れば良いという意味です。これを歌に活かしたら素敵だと思います」

また③などの難しい曲を歌ったが、この咀嚼法で曲を楽籠中のもとしてしまう。

彼女は若き日にサラ・ボーンに憧れ、孤独を感じた時にはシーラ・ジョーダンを聴くという。二人とも別次元というべき歌の巧者だが、海原は彼女らのテクニックを心で聴きリフレームして自らの歌を研いでいるのだ。彼女の歌の魅力、その秘密の在処が配信を視聴して解った気がした。(小針俊郎)